



弁護団だより 🍦🍦🍦🍦🍦🍦🍦🍦🍦

みんなして



No.43 発行 2015年8月
「生業を返せ、地域を返せ！」
福島原発事故被害弁護団
TEL : 03-3379-6770

【 最近の動き 】

東電や国の動向	弁護団・原告団の取り組み
7月31日 検察審査会、東電元役員について議決。強制起訴	8月01日 沖縄支部学習会（今帰仁村）
8月11日 川内原発、1号機が再稼働。新規規制基準の下で初めて	8月02日 沖縄支部学習会（那覇市）
8月17日 南相馬市原町地区、住民130人が慰謝料月額35万円を求めて東電を提訴	8月18日 原告団学習会（二本松市）
8月21日 楢葉町、小中学校、2017年4月再開へ	8月22日 会津支部学習会（会津若松市）
	8月24日 原告団・弁護団合同会議（福島市）
	8月28日 弁護団会議（東京）



「被害幕引き、許さない」申し入れ

生業訴訟原告団長 中島 孝

20mSv(ミリシーベルト)以下は被害ではないとして、被害救済も打ち切りにする動きが全面的に現れてきました。国と東電が共同で作出しているこの流れを押し返さないと、原状回復も被害の全面的救済も叶わなくなります。生業訴訟原告団は、県内の主要な自治体の首長や議会に対し、この「20mSv受忍論」に反対する申し入れを行っていきます。

「年間放射線積算量が20mSv以下の地域では、将来の健康被害を心配するのは非科学的だ。不法に権利を侵害したとは言えない。」と表明したのは、昨年3月の第5回期日での東電でした。しかし今や国が、原発事故の幕引きを図る言い訳としてこれを使うようになりました。

20mSv以下は安全であり、なんらの健康被害も及ぼさないとは言えないというのが放射線防護学の大勢。そもそもこれは、ICRP(国際放射線防護委員会)の事故時の参考値を流用したもので、事故収束後の復旧時に20ミリ〜1ミリ以内にすべきとした、事故後のある段階での単なる目安にすぎません。



もしこのまま、「低線量だから受忍しろ、あれこれ騒がず、じっと我慢しろ」という「受忍論」を許すとどうなるか。国や東電の責任があいまいにされ、原状回復の責任も果たさ

れず、いまある制度（医療、生活再建、賠償など）さえも打ち切られるおそれがあります。

さらに、生業裁判にも大きく影響するでしょう。被害の実態が小さく捻じ曲げられ既成事実とされれば、深刻な状態に「何としても救済しなければ」から「まあ、いいか」へと、裁判官の判断を大きく後退させる恐れがあります。

被害の幕引きと救済の打ち切りは、震災からの復興を掲げる県の計画にも大きな障害となります。生業再建の目途もなく、無理強いして帰還させて賠償金も打ち切るというのは、地域にはさまざまな矛盾や苦しみがいつまでも付きまとうでしょう。これこそが他の災害と異なる原発事故の特異性であり、国の都合で強引に幕引き、収束を凶ろうとしても決してうまくいくものではありません。誠実に救済を図りつつ、住民の実態に合わせた長いスパンでの復興計画を進めなければなりません。

みなさん、強引な打ち切りでなく、住民の実態に合わせた誠実な対策を取ることを呼びかけるこの申し入れに、誇りある原告として多くの皆さんが参加されますよう心から呼びかけます。



原告団と弁護団では、10月22日に、東京演劇アンサンブルによる『銀河鉄道の夜』の公演を予定しています。今回、公演に先んじて、東京演劇アンサンブルの松下さんに寄稿していただきました。

『銀河鉄道の夜』 日時： 10月22日（木） 18時30分開演（18時開場）
会場： 福島県文化センター大ホール
会費： 一般1000円

生業訴訟のみなさまへ

東京演劇アンサンブル 松下重人

東京演劇アンサンブルは『銀河鉄道の夜』の上演を30年以上続けています。初演は1982年。僕は1989年のクリスマス公演から参加しています。始めはジョバンニの影の役でした。それから燈台守、車掌、そして現在は語り手をやっています。メンバーチェンジをしながら上演し続けています。

僕は7月21日、生業訴訟報告集会の時、『銀河鉄道の夜』の中で歌われる「銀河の底で歌われる愛の歌」を紹介しました。

ひとすじに やさしく
まなかいに いつまでも
愛
貝がらに火をともし
あの人の名前をよぼう
さそり座ゆらぐ 夜
麦の穂をくちびるに

ねがいごと
乙女座もゆる 夜
ひとすじに やさしく
まなかいに いつまでも
愛

(作詞 広渡常敏 作曲 林光)



聞いていただいた方はお気づきになったかもしれませんが、この歌は琉球音階で作曲されています。今年6月の末から7月の頭にかけて沖縄に行きました。戦後70年の日本の平和と言いますが「沖縄ではまだ戦争は終わってすらいないじゃないか！」という印象を持ちました。そして、また新たに基地建設が押し進められようとしています。

「林光さんは何故この歌を琉球音階で作曲したのだろう？」

ここで僕に大切な稽古中のあるエピソードを書きたいと思います。

1998年のことです。ちょうど燈台守をやっている時の稽古中のことでした。

「お前は宮沢賢治がどんな思いでこれを書いたのかわかっているのか！」

稽古場に罵声が響きました。演出の広渡が怒鳴ったのです。緊張のあまり体は委縮し、思考は停止し、芝居の稽古どころではありません。

燈台守：いかがですか、こういうリンゴは初めてでしょう。

青年：おや、立派だなあ！こちらではこんなりんごができるんですか？

燈台守：いや、まあお取りください。どうかまあ、お取りください。(ジョバンニたちの方へ) さあ、むこうの坊ちゃんがた、いかがですか、お取りください。

カムパネルラ：ありがとう。

ジョバンニ：ありがとう。

青年：どうもありがとう、どこでできるんですか、こんな立派なりんごは。

乗客1：この辺じゃもちろん農業はしますが、たいていひとりでにいいものができるような約束になっております。農業だってそんなに骨は折れはしません。大抵自分の望む種さえまけば、ひとりでにどんどんできます。

ジョバンニ：種さえまえばいいんですか？ひとりでにどんどんできるの？

燈台守：あんたがこれからいらっしゃるほうなら、もう農業はありませんや。りんごだってお菓子だって自然にできて、かすが少しもないし、みんなその人その人によってちがった、かすかないいい香りになって、毛穴から散らけちまうよ。

この最後の燈台守のセリフを言った直後でした。

「お前は宮沢賢治がどんな思いでこれを書いたのかわかっているのか！」

僕がその思いを知るのはもっと後のことです。それは同じ宮沢賢治作『グスコブドリの伝記』の再演(2003年～)を経てからです。冷害、日照り、飢饉・・・東北の現実で格闘するグスコブドリ。

「あんたがこれからいらっしゃるほうなら、もう農業はありませんや。りんごだってお菓子だって自然にできて、かすが少しもないし、みんなその人その人によってちがった、かすかないいい香りになって、毛穴から散らけちまうよ。」

ということを切望する現実というものに気づかされたのです。「生きたくても生きて行くことができない」現実、その投影なんだと思い知らされました。であるならば・・・「オキナワ」という3次元現実が投影された幻想4次元世界・・・

「ずっとそうだったじゃないか！光さんが作曲した当時だって！」

実は僕はこれまでこの歌をいい歌、優しい、いいメロディの歌、だと思っていました。今は・・・いや、違うぞ・・・なにかこう引き裂かれたような・・・。自分の想像力のなさを痛感します。それこそ「うらみやのろい」に裏打ちされた祈りのようなこの歌を歌うことができるのか、その思いを受け止めることができるのか・・・。

愛する人を失ってしまった時、かけがえのないものを失ってしまった時、どうしようもない悲しみに暮れる。でも、その悲しみを見つめ、それを乗り越えようと”生きる”という方向へ想像力を展開していった、それが『銀河鉄道の夜』だと思います。宮沢賢治がこれを書いた動機は妹のトシさんの死があったと思います。悲しくて悲しくてしょうがなく、書いても書いても・・・亡くなるまで10年、4回書き直したそうです。その精神に圧倒されるのです。

10月に生業訴訟の皆さまにこの芝居をお届けいたします。
有り難いです。
そして、やはり怖いです。
よろしくお願いします。



今回は水曜日！

生業訴訟第14回期日（9月30日）のお知らせ

【裁判所：午前】

11:00 中谷内証人 主尋問
13:00 事務所前集会
13:20 裁判所へ行進

【裁判所：午後】

14:00 中谷内証人 反対尋問
15:00 中谷内証人 再主尋問・補充尋問
16:00 弁論

【文化センター小ホール】

14:00 大友良英さん 講演会
16:00 原告団企画
17:00 報告集会
19:00 懇親会

NHKドラマ
「あまちゃん」の
テーマ曲を作曲！

原告のみなさまへ 会費納入のお願い

原告の皆様からは、次の通り合計 18,000 円の年会費を集めています。年会費は弁護団の訴訟活動費用に充てられます。

- ①第1次～第3次（2014年2月10日提訴まで）の方
年会費 6000 円×3 年分
- ②第4次（2015年9月10日提訴）の方
年会費 9000 円×2 年分

2回目以降の会費をまだ納入されていない方は、下記振込先への納入にご協力をお願いします。

【振込先】

みずほ銀行 川崎支店
普通預金口座 4425545
口座名義：福島原発事故被害弁護団
(ふくしまげんぱつじこひがいべんごだん)

※題字「みんなして」は、筑井誠さんの筆によるものです。